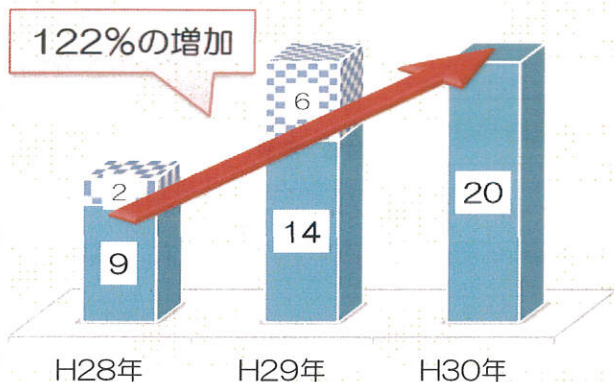




# 建設業の死亡災害!!

年別同時期比較

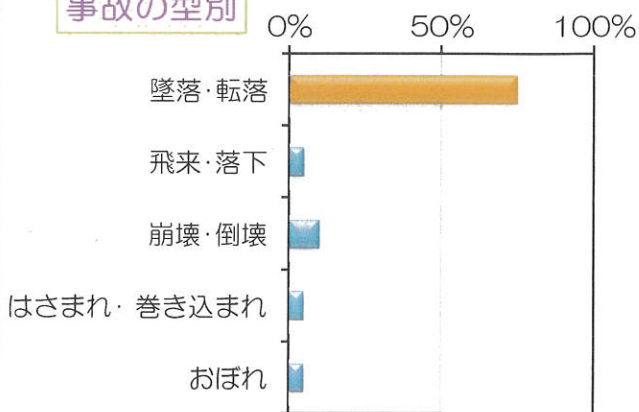


大阪府内における建設業での死亡災害は、平成30年10月20日現在20人と昨年1年間の発生件数と同数となりました。

—昨年の9人に比べると11人もの増加となっています。

このままでは、平成20年の28人に匹敵する憂慮すべき状況となってきています。

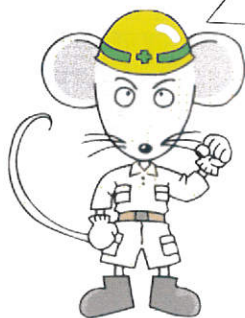
事故の型別



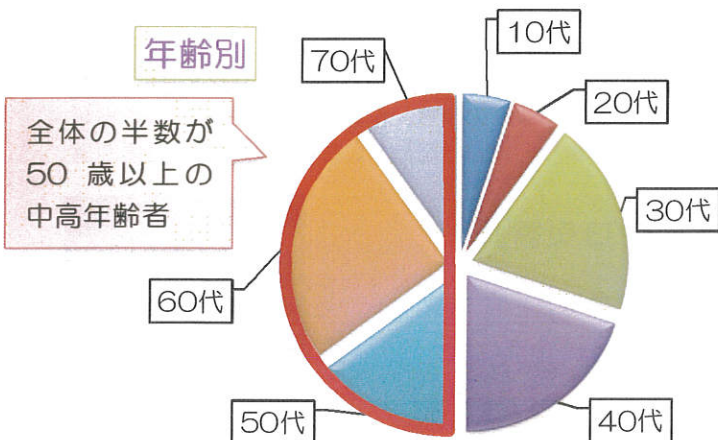
事故の型別の、4分の3(75%)が「墜落・転落災害」で占め、他の災害に比べて突出している状況にあります。

年齢別では、50歳以上の中高年齢者が5割を占め、経験年数別では、5年以下が4割を占めています。

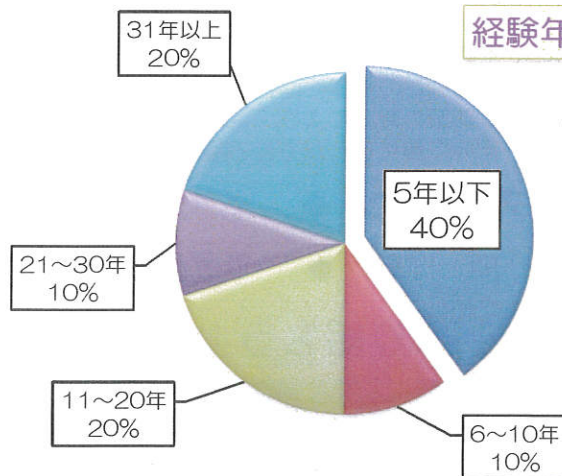
雇入れ教育や危険体感教育に加え、「危険場所」、「危険箇所」及び「危険作業」を見える化しましょう。



年齢別



経験年数



# 災害事例

事故の型	年齢	経験年数	発生状況
墜落・転落	60代	3ヶ月	高さ2m83cmの脚立に乗り、電気配線を通すための穴（梁スリーブ）にゴムシートで養生し、電線を通す作業を終えた後、脚立から墜落した。
墜落・転落	40代	2年	BSアンテナ設置工事の見積もりを行うため、同僚と2人でマンションの屋上塔屋部へ登り、既設アンテナの状態とケーブルの配線状況を確認しようと幅24cmのパラペット上を移動していたところ、バランスを崩して約23m下のアスファルト道路に墜落した。
墜落・転落	70代	50年	台風21号により被災した倉庫の屋根を修理するため、補修材を持ち屋根上を移動中、スレートを踏み抜き約10m墜落した。

## 新規入場者教育の具体的な事項

1	工事の概要と作業場の方針
2	作業場内の危険箇所と立入禁止区域
3	担当する作業内容と安全対策（作業手順と災害事例等）
4	作業場の規律と安全心得
5	作業所の安全衛生行事と実施要領
6	避難に関する事項

「元方事業者による建設現場安全管理指針」より



## 墜落災害防止自主点検表

点検日 平成 年 月 日 ( )

1	開口部には手すり・中さん・幅木等を設けている。	
2	高さ2m以上の箇所での作業では、足場等を設置し、墜落防止措置を講じている。	
3	枠組み足場の筋交いの下に、下さん(15cm~40cm)等を設けている。	
4	単管足場・くさび緊結式足場には、手すりに加え、中さん(35~50cm)等を設けている。	
5	高さ5m以上の足場の組立解体の作業では、足場の組立て等作業主任者を選任している。	
6	足場の組立て等作業主任者に安全帯等の使用状況を監視させている。	
7	足場の組立解体等の作業に従事する労働者に、特別教育を実施している。	
8	足場と躯体との間隔が広く、墜落のおそれのある箇所には、手すり等を設置するか、足場板で養生する等の措置を講じている。	

点検者



# リスク“ゼロ”大阪推進運動

- ◆ リスク“ゼロ”大阪推進運動は、「災害ゼロ・疾病ゼロの大阪」を実現することを究極の目標として、労働災害の防止、重篤災害の撲滅に向け、働く者すべてがそれぞれの立場で自主的に安全衛生活動を実践し、職場風土と安全文化を構築していくための啓発運動です。
- ◆ この運動は、平成30年度を初年度とする「大阪労働局第13次労働災害防止推進計画」の目標を達成するため、工場、現場、事務所、店舗などの職場に潜むリスクの洗い出しを行い、これに基づき設備の改善、作業手順の見直し、安全衛生教育の実施などの対策の徹底により、災害のリスクをなくし、「正規」「非正規」等の区別無く、全ての労働者の健康が確保され、安全・安心に働くことができる職場の実現に取り組むものです。

◆ スローガン ◆ 『 リスク無くして、ゼロ災害 』

◆ 期 間 ◆ 平成30年度から5か年

～ 取り組もう！ 5つの活動 ～

安全見える化活動

安全 Study 活動

リスク評価推進活動

命綱GO活動

今日も一日ご安全に活動

